

大阪大司教／平林冬樹
神父（イエズス会）／ド
メニコ・ヴィタリ神父
（職町教会主任）

●長崎シンポジウム

三月八日（日）
時間…十六時～
場所…長崎カトリック
センター

シンポジスト…高見三明
長崎大司教／前田万葉
大阪大司教／平林冬樹
神父／野口勝利（浦上教
会歴史委員会委員）

また、広島教区民の列聖
運動への意識を高めるため
に、一月十二日のシンポジ



津和野殉教者列聖運動
シンポジウムのポスター

ウムの日から、五月三日の
津和野乙女峠まつりの日ま
で、乙女峠殉教碑レリーフ
を広島教区内をリレーでつ
なぎ、祈りの輪を広げ、列
聖運動を盛りあげます。

③「家庭へのチャレンジ」

——広島教区創立百周年
（二〇一三年）にむけての
テーマ——

三年をかけて「家庭への
チャレンジ」のテーマに取
り組んでいく第一年目が終
り、第二年目を迎えます。

「わたしの『家庭への
チャレンジ』として、わた
しは〇〇をします」をキー
ワードにして、個人・グ
ループ・小教区・地区・

教区で進め行くことにな
っていましたが、停滞
しているというのが現状
です。

「家庭・家族」という
テーマそのものが広範囲
な領域にわたっており、
それにとまなう曖昧さ、
多様さ、複雑さのため
に、焦点を絞る困難さ
にも直面しています。

「家庭・家族」は教会
共同体の基本単位である
こと、「信仰継承」、「単

身生活者」、「高齢者」、「多文
化共生」などを軸にこれから
の実りある展開へとチャレン
ジすることになります。

今、広島教区は、前田大司
教の大阪大司教着座にともな
い、司教座空位の時を過ごし
ています。

神が、広島教区へ「善い牧
者」を遣わしてくださるよ
う、心を一つにして祈りま
しょう。

なお、広島教区名誉司教三
末篤實司教様は、翠町教会
で、司牧活動にいそしみな
がら、心身ともに健やかに生活
をしておられます。

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一四年度（第一回）広
島司教区宣教司牧連絡会開
催】

昨年十二月十四日、
二〇一四年度第一回広島司教
区宣教司牧連絡会（以下、教
区連絡会）が、職町教会マリ
アホールで開催された。司
祭、修道者、信徒の二十四人
が出席した。

本来、二〇一四年度第二
回広島司教区宣教司牧評議
会が開催されるこの時期で
あるが、九月二十三日、前
田大司教が大阪大司教に就
任されたため、広島教区長
が不在となり、この間の教
区宣教司牧評議会は開催で
きないためである。（教会
法五百十三条）

そこで教区管理者である
肥塚神父、平和の使徒推進
本部の主催により教区連絡
会が開催され、次のことが
話し合われた。

議題はまず、司教座空位
の状況の中、継続して行わ
れる活動について話し合わ
れた。

津和野乙女峠殉教者列聖
運動

●日本国内の浸透が薄く
「なぜ津和野だけなの
か？」との疑問もある
中、広島教区がこの列
聖運動を始めた意図や
めざしていることの理
解と協力を願って、広
島で、続いて長崎でシ
ンポジウムを開く。長
崎では、津和野殉教者
のための展示会を開催
する。



津和野乙女峠にある殉教者記念レリーフ

●列聖運動の機運を高め
るため、津和野乙女峠
殉教者記念碑レリーフ
のレプリカ小教区巡回
中。レプリカ（二個）
を作成し、一月十二日
（広島シンポジウム）
からスタートし「西回
り」「東回り」の二つ
のルートで、五月三日
（乙女峠祭に到着）の
間、昨年度のマリア像
レリーフと同じように各
小教区を巡る予定。
《召命促進》
予備神学校の主な活動に
ついて。
予備神学校のテーマ「神
様の呼びかけにこたえて」
少年サムエルのように」

で、昨年五月に実践教理研
修会、六月に第一回、九月
に第二回の予備神学校を開
講、来る二月に第三回の予
備神学校を開講予定。

二〇一五年度は年五回、
開講予定。参加する生徒は
もちろんのこと、司祭、ス
タッフおよび協力者も増や
したいとのこと。教区民の
皆さんには、機会があれば
予備神学校を見学してもら
い、どのようなことを行っ
ているかを見て欲しい。

《青少年育成》

青少年司牧に関する主な
活動について。

平和行事、練成会、ネッ
トワークミーティングなど
に関わった。特に広島土砂
災害ボランティアに青年た
ちが積極的に関わった。来
る三月には広島ノートルダ
ム清心中で中ブロ（中国ブ
ロックカトリック高校生大
会）が開催される予定。

また、今後の青少年情報
センターの必要性や活動の
活性化が課題と言える。

《教区共通カテキズムの作
成》

当初、前田大司教の意向
は、教区民全員がこの活動

を道具（きっかけ）とし
て、また準備作成していく
作業を通して信仰（信仰か
らの奉仕、信仰への奉仕）
のレベルアップを図るひと
つの手段として三つのカテ
キズムを作成することを提
案された。

●専門委員会の立ち上げに
ついて、司祭評議会か
ら、三つのカテキズム
に携わっている信徒一
名と司祭一名を各地区
から選び、肥塚神父、
服部神父を含め、全
八名で委員会を立ち上
げたいとの提案が出さ
れ、本教区連絡会です
承された。

《平和年》

●平和年（二〇一四年八
月六日～二〇一五年八
月六日）と、被爆後
七十年（二〇一五年八
月六日）について、教
区民に意識してもらう
ため、広島地区平和推
進チームの活動につい
て、報告と今後の予定
の発表があった。

①毎月六日を「平和の日」
とする。

②平和アピールなど、教区

レベルの戦争と平和に
関する学習をする。

③広島（被爆）だけが中
心ではない。それぞれ
が住む町（小教区の周
り）で戦争と平和に関
する学習をする。

●教区「平和年」戦争と平
和モニュメント写真募

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

集企画についての提案
があった。この提案は
平和年としての活動を
可視化することをめざ
す。実際に戦争と平和
を記念する場所に赴く
ことで、戦争を記憶し
平和について考え、紹
介することを目的とす
る。募集要項の詳細に

については、案内が出さ
れる予定。

《奉献生活の年》

教皇フランシスコは、
「奉献生活の年」を
二〇一四年十一月三十日
（日）に開幕し、二〇一六
年二月二日（火）に閉幕す
ることとされた。現在、広
島教区としての具体的な取
り組みの予定はこれからと
のこと。

なお、山口島根地区修女
連としては、細かいことに
は触れず、三つの柱として
「靈性を深める」「地区内
の修女連と修道会が互いに
祈り合う」「山口教会での
記念ミサと講演会（八月
三十一日）開催予定として
今後具体化する」を行って
いくとのこと。

《「家庭へのチャレンジ」
広島教区創立一〇〇周年に
むけてのテーマ》

教区全体での動きについ
て、平和の使徒推進本部と
しては、前田大司教のご意
向も踏まえ、一年目に目標
を立て、その後の二年間で
チャレンジしていく進め方
を推進した。

その中で一年目の

二〇一四年度は、岡山鳥取
地区からの提案「私の家庭
へのチャレンジとして、私
は〇〇をします。」という
目標、宣言を基本として取
り組んでもらう方向性と
し、今回の教区連絡会で半
年間の各地区の歩みを報告
してもらおう進め方としてい
た。

また、山口島根地区とし
ての理論的（具体的）な取
り組み提案を基本として、
「家庭」に関する教会公文
書についての学習などを推
進してきた。ガウデーテ
（GAUDETE）発刊や
教区ホームページ掲載など
である。そうした教区全体
の動きの中、今後の取り
組みについての意見とし
て、家庭のチャレンジにつ
いてみんなで祈れる「祈り
のカード」を作り、家庭で
もっと祈ってもらう必要が
あるのではないかと、家庭と
いうテーマはまとめること
は難しいため継続したテー
マを進めていくことが必要
との意見が出た。

以上のことが話し合わ
れ、祈りと祝福のうちに二
時間半の教区連絡会を閉会

した。

なお、本教区連絡会は、現状を確認することを目的に開催された。今後、平和の使徒推進本部にて、家庭に対するキーワードとして「信仰継承」「祈り」「高齢者」「外国籍の家族」などにしぼり提案するとのこと。

意見や要望など、平和の使徒推進本部までどうぞ。

『ユスト高山右近 殉教四百年記念ミサ』

日本カトリック司教協議会は、ユスト高山右近の殉教四百年を迎えて、命日の二月三日に、記念ミサを開催することを決定しました。

日時：二〇一五年二月三日 (火) 十三時半～十六時
会場：神戸文化ホール大ホール

主催：日本カトリック司教協議会・列聖推進委員会

共催：大阪大司教区

来賓：ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿(マニラ) 他

J-CARM 広島便り

境港での「ロザリオ十字軍」

イエズス孝女会(松江修道院) シスター カルメン

過去六年間にわたり、

しています。

松江、米子、境港で、「ロザリオ十字軍」に取り組んできました。そして、昨年の十一月三十日に、二人のフィリピン女性とSrカルメンは米子の荻神父様とともに境港に向かつて行進しました。「ロザリオ十字軍」はタガログ語では「Lakbay Bayay」ですが、家族でロザリオの祈りをしてその家庭に希望と勇気を与えるために祝福しながら、家から家へと聖母マリアの像を運ぶのです。それはフィリピンで長年行われている、マリア信仰の美しい伝統です。ここ日本では多くのフィリピン人が、マリア様をお迎えし我が家に存在してくださいる機会をもつことを光栄に感じ、楽しみに待っています。しかし、ほとんどのご主人がカトリックでなく、

境港に到着して、まずその家族のもとに一か月間いらった聖母マリアを次の家族のもとへお運びします。ロザリオの祈りをはじめめる前に、荻神父様は二十人の子どもたちを集めて、カテキズムをししました。十字架のしるしのし方や、基本的なお祈りである、主の祈り、アベマリアの祈りなどを学びました。またルルドのアベマリアの歌も習いました。子どもたちにとって信仰を知り、理解し愛し始める良い機会となりました。そのあとは、荻神父様も一緒に遊びに加わって楽しい時間をすごしました。別の部屋では、Srカルメンが、カテキズムと信仰の形成のためにお母さんたちと一緒にいました。トピックは待降節で、その意味と、今年のクリスマス

にキリストを迎えるために、日常生活の中で与えられる多くの出来事の中でどのように準備をしたらいいかを考えました。それから津和野についての話と日本の殉教者についても話しました。最近のことですが、広島司教区は津和野の殉教者の列聖の運動を開始しました。お母さんたちは、はじめて聞くことなので大変興味をもち、五月の巡礼に参加する計画をしました。カテキズムのあと、二つのグループに分かれ、各連でリーダーを変え、マリア様の歌を途中に入れながら、ロザリオの祈りをしました。わたしたちは、最後にマリア様と彼女の息子に家庭を奉獻する祈りをしました。子どもたちは最後に一緒に、日本語でマリア様の聖歌を歌い、お母さんたちは英語で歌いました。一緒にグループに加わって興奮した子どもたちの幸せな顔



と、お母さんたちの感謝に満ちた顔をみる事ができました。みんなにとってはじめての経験でしたので、子どもたちは熱心に活発に参加しました。荻神父様は家を祝別してください、ひきつづき、神の愛によりお母さんたちが用意した手作りのご馳走を食べました。誰もが希望に満ちて信仰を新たに、満足そうに家路につきました。

Srカルメンを囲むお母さんと子どもたち、写真左下にSrカルメン

広島土砂災害支援

原田豊己神父

《カリタス広島災害サポートセンター》

八月の災害から四カ月、被災した方々はどのようなクリスマスとお正月を迎えているでしょうか。

昨年十二月二十六日にはすべての避難所が閉鎖されました。それに伴って広島市は「災害対策本部」を解散し、新聞報道によれば「区役所を中心に寄り添った支援をしたい」との市長の言葉を紹介しています。

サポートセンターは、皆様から頂いた支援金を「社会福祉法人やぎ 八木園」と「社会福祉法人あさみなみ」の再建に使用させていただきます。このことを決定しました。

一九八五年に開所した「八木園」は、指定障害福祉サービス事業所として障害者就労支援施設として安佐南区八木町で活動していました。八月の豪雨災害で全壊しました。現在は県所有の元職員寮で活動して

います。鉄筋三階建てのために、エレベーターの新たな設置、建物の改造、送迎用車両に多額の費用が掛かります。

「社会福祉法人あさみなみ」は、一九八四年から安佐南区祇園六丁目で活動を開始し、地域での障害者生活支援に取り組んでいます。施設内が浸水し、施設内の設備、物品が大きな被害を受けました。建物は補修で対応しますが、大きな経費が掛かります。

二〇一五年三月末までサポートセンターの活動を継続しています。募金は締めきらせて頂いていますので、よろしく願います。



災害直後の様子、甚大な被害を受けた八木園
*写真は、八木園ブログより

重要文化財

世界平和記念聖堂 耐震補強案を検討

重要文化財・世界平和記念聖堂の耐震診断事業の第三回有識者委員会が昨年十二月十九日(金)に開かれた。前回提案されていた補強案が聖堂正面の景観を著しく損なうことから、教会側の強い要請で再検討することになった。

今回提案では、階段室や玄関脇の倉庫、小玄関に鉄骨の耐震壁を設け、聖堂の玄関付近の強度不足を補う案となり、外観に影響がな

いものとなった。また、地震で大きく揺れることが心配される鐘塔では、一階のマリア小聖堂の壁の改造を避けるため、基礎から上層階に特殊な鉄筋棒で引張る補強対策と地盤改良などが提案された。

次回委員会は三月初旬に耐震補強案の文化財としての影響評価と概算費用の検討を行う予定である。詳細は保存活用委員会までお問い合わせください。なお、司教座聖堂である記念聖堂を保存する募金活動を行っている。信徒の皆様の理解と協力を願います。



耐震補強が予定されている聖堂正面玄関右手の扉の状態の説明を聞く有識者

世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

広島司教区 堅信を受けられた方 (2014年10月～2015年1月まで) おめでとうございます!

◆三原教会 2014年11月23日

- ヨセフ五島一雄
- ローマのフランシスカ中本郁子
- モンタルボ・コルドバ・ワラシエラ・メルセデス
- フロレス・アシミネ・ノリカ・エレナ
- シラネ・ビビアン・アリッサ
- スギモト・グルゲル・エリキ・タダシ
- マリア・クララ柏原節子
- ジュスティノ・カジタ・エステイアン・アケミ
- ジュスティノ・カジタ・ジェニファ・ナツミ
- シラネ・ビクトル・リュウ
- ゴゼル・ベレス・リュウヘイ・エルベル
- キスベ・ノバラ・ダイキ・ホセ
- キスベ・ノバラ・マリア・イザベル
- 聖ヨゼフ貝塚海斗
- ヒラタ・ペドロ・ヘンリケ・タダシ
- ヒラタ・ジョアン・ビクトル・ツヨシ
- 脇圭志
- アグネス山岡梨奈 (2014年1月26日受堅)
- ヨセフ・チークフリード桑原一哲 (2014年1月19日受堅)

地区便り

岡山・鳥取地区

＊インファンタ高校生来日

昨年十一月六日～十二日、三姉妹教区のひとつ、フィリピンインファンタ教区より、マウントカルメル高校校長Srハーシーとトロイ君(九年生)・ジョン・マーク君(八年生)の三人が訪問し交流を深めました。三人は倉敷ブロック三教会をはじめ、岡山教会、さらに清心学園中学校などを訪れて学生達との交流、日本の歴史、文化に触れました。滞在中は岡山教会他、信者さんのお宅にホームステイしました。

校長のSrハーシーは「日本に来日した学生は全員で十二人になります。彼らは日本訪問によって大きく成長しています。人生の目標や、将来の仕事、社会での役割についてはつきりとした目標を持つようになりま

ス。この交換交流プログラムにとっても感謝しています。」と言われました。毎年十二月開催している

＊水島教会献堂五十年

昨年十月二十六日、司教座空位のため、教区管理者・肥塚神父様の主司式にて、歴代神父様方、遠方よりお越しの神父様、韓国からは李神父様もお越しになられ盛大に献堂記念ミサが執り行われました。ミサ後には、パーティーも催され、たくさんのお料理に囲まれ、喜びと感謝に満ちたパーティーとなりました。



水島教会歴代担当司祭他、大勢の司祭と信徒ら

広島地区

＊広島キリシタン殉教祈念祭

三人の福者、フランシスコ遠山甚太郎、マティアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門の殉教の地、己斐の殉教碑前で祈りを捧げ、観音町教会まで十五分ほど徒歩巡礼を行い、教会で殉教祈念ミサ、講演会が行われます。

日時：二月十一日(水・祝)

九時半～

内容：九時半、殉教碑前(広島市西区己斐東清心学園入口)集合。十時十五分、殉教祈念ミサ(司式・ヴィタリ神父)。十一時十五分、講話(講師・ヴィタリ神父) 十二時より茶話会。

＊「平和アピール1981」

「聖地パレスチナは今、平和の道を歩むために」 日時：二月二十二日(日) 九時半のミサ～十三時半頃まで

講師：モタズ・サブリスン(パレスチナ出身。広島大学大学院工学研究科) 場所：世界平和記念聖堂、

海峡からの風 35

下関労働教育センターだより

にもかわらず ぶれないで!

「被爆地と国、埋まらぬ溝」という表現が紙上に出ていました(朝日新聞 二〇一四年十二月二十日)。十二月ウィーンでの「非人道性」国際会議で日本政府の佐野軍縮大使の発言を巡ってです。田上長崎市長は核兵器廃絶しかないと言っています。被爆者諸団体も安倍首相・岸田外相へ抗議文を送っています。外相も限定的使用を容認するかの発言をしているからです。非人道的核兵器の廃絶は当然のことであり、広島教区はその目的の為に、絶えず道を拓き先駆けて、祈り歩む教区であると誇りを感じています。

投票率は五一・二%でした。でもこの低投票率には有権者の様々な意見の現れです。現首相の獲得票数は減っても、代議士として選挙区へ一度も帰らないで当選したと誇るかのメディア報道でした。海峡からの風が後押ししない選挙結果です。しかし、教皇フランシスコの言われるように、「政治的生活への参与は道徳的義務です。」(福音の喜び・230)との指針にも従い、これからの日本の動向にしつかりと向き合い心新たに降誕節を生き、新年からの逆風(原発再稼働・輸出、防衛装備移転、集団的自衛権、特別秘密保護、労働者・高齢化社会の抑圧、格差の増加、憲法の改定等様々な国の枠組みや生活の深部の崩壊、国際的緊張を含む変化)に流されずに対話・連帯を広げ、福音的にぶれない祈り・歩み方をしたいです。

(林尚志)

広島カトリック会館多目的ホール

***2.11「建国記念の日」を問う広島集会**

『次世代へ、平和憲法を未来にたくすために』

日時：二月十一日(水・祝)

十四時～十六時

場所：広島カトリック会館

多目的ホール

講師：足立修一さん(弁護士)

参加費：五百円(資料代)

***「津和野殉教者の列聖をめぐりて」日本信徒発見百五十周年」長崎シンポジウム参加と上五島巡礼**

期間：三月八日(日)～三月十一日(水)

同行司祭：肥塚倅司神父

定員：二十五人

問合せ先：カトリック広島司教館

電話：082-221-6017

山口・島根地区

***地区宣教司牧評議会**

一月十一日(日)に地区事務局にて開催。来年度の行事や予算、山口島根地区センター正式始動にあつての準備等を行った。

***信徒使徒協議会定例会**

一月十八日(日)、山口カトリックセンターにて。教区・地区宣司評の報告や

新年度からの組織について。

***地区養成研修**

「教会の門をたく人と共に歩む」奉仕者養成コースは、一月十日(土)と二月七日(土)で全⑤コース完了。

次年度に向けて：清水神父は勉強会用冊子作りを検討中。

三月十日(火)、信者養成委員会を開き、次年度の計画についてより具体的に準備を進める。

***財務・会計担当者会議**

二月一日(日)、山口カトリックセンターにて。新年度からの新システムについて。

***日本のクリスマスは山口から**

昨年も「十二月山口市はクリスマス市になる」と言う山口商工会議所の企画が行われた。その一環として、十二月一日(月)にサビエル記念聖堂内において、「日本のクリスマスは山口から」のオープニングセレモニーが行われた。

山口から多くの人にキリスト生誕の意味、平和の思いが伝わっていきますように。



イベントに合わせてライトアップされたサビエル記念聖堂(カトリック山口教会)

広島教区の施設 24

学校法人ナミュール
ノートルダム学園

高屋幼稚園

地域社会に拓かれた高屋幼稚園は、その教育理念をキリスト教精神に基づき、素直なところ、感謝のこころを育むことにおいています。

本園は、一九七三年創立以来、四十余年の歴史を刻んで参りました。創立当初から今も変わることなく大切にしていることばがあります。それは『はい』という素直なところ、「ありがとう」という感謝のこころです。このことばを園のことばとして大切にし、日々の保育に携わっております。

本園は、日々、子どもたちと寄り添う中で、人を大切にしたいやりのこころ、どんな時にも感謝できるこころ、正しいこと(善いこと)を選び取る勇気を育むことに重きを置いています。園児たち一人ひとりが持ち合わせている可能性を最大限発揮できるよう、また、こころ豊かな人に成長できるように援助しています。

本園における課内活動では宗教教育・モンテッソーリ教育・

音楽教育・英語教育等、課内での保育にも特色を生かし、組み込んでいます。また、一人ひとりの子どもの自立を促すことができるよう環境を整え、配慮しています。

現在、各学年四クラス、そして満三歳児クラスを合わせて十三クラスの子どもたちが通園しています。園児たちは、広い園庭で学年、クラスを超えて元氣一杯に遊んでいます。また縦割り自由遊びでも、学年、クラスに関わらず楽しく過ごしております。また、チャペルでのお祈り等も大好きな子どもたちです。

園児たちは互いに認め受け入れあい、友を大切にできる優しい心、分かち合う心をモットーに自然豊かな環境で学び「静」と「動」、心と身体のバランスを持ちつつ逞しく育っています。



クリスマスを祝う園児たち

青少年の活動

第4回 万葉杯ソフトボール大会



信徒だけでなく多くの司祭も参加

今年も、十一月三日に芦田川の河川敷で、「第四回万葉杯ソフトボール大会」が開催されました。前田万葉大司教様は、広島県の司教様ではなくなりましたが、この名前をまだ使っても良いと快くお許しください、さらに、景品代まで出してくださいました。

今年の参加チームは「広島青年連合」「三原」「水島」「福山」「司祭団」「三篠」の六チームで、応援の方も含め百三十人が集

まりました。ミサの後に教会で練習していたというチームや、広島から大型バスを貸し切って来たチームもあり、どのチームも気合が十分感じられました。そして、神父様が、センターの頭上をはるかに超えるホームランを打ったり、少しお歳を召された女性が守備でナイスプレーをしたりして、大変盛り上がりました。決勝戦は、三篠教会と司祭団との試合になりました。両者とも強打者ぞろい

だったので、若さで上回った三篠教会に万葉杯が渡りました。ソフトボール大会を通して、教会の中のつながりも深まり、また、教会に関係のない人とも一緒に楽しむことができました。このソフトボール大会は、とても貴重な大会だと思えます。また来年度、多くの教会の参加を期待しています。

(福山教会 伊藤 光子)

司祭は、流れ者

岩国教会 中村健三神父

五十七歳になってから教会の司牧活動に転戦し、早くも十七年余りになった。今まで経巡った教会を順にあげると、まず細江、次に長府、次いで益田、山口、長府、徳山・下松、岩国となる。細江と山口はわずか

に五ヶ月の任期でまた異動、あらたな引越しの大仕事に煩わされた。司祭としての働きそのものに大きな違いがあるのではないが、各地の教会事情は大きく異なり、そこに生き働き祈るキリスト者の実像もかなり異なる。しかし引越しの苦勞を差し引くならば、その地に過ごした日々は長短にかかわらず実に貴重で、あの人この人の顔つきや話しぶりが直ぐに目に浮かび、さら

に山谷川の姿かたちや季節ごとの風景が懐かしく思い出される。生まれ育った幼少年期のふるさととは一っだけにしても、転戦して巡りあつた各地の教会は、自分にとっていづれも大切で、暖かい思い出結ばれた有難い宝物である。その意味では、司祭は数多くの故郷を戴いている。

ある。少子高齢化の現実が教会の内にも外にも重く色濃くのかかっているが、これはピンチというよりむしろチャンスとして受け止めたい。キリスト者であることが特権でも優越でもなく、生身の人それも現代社会の真つ只中でもがく生活者という原点に立ち返るならば、ともに悩みながらも助けあい、ともに迷いながらも支えあい、ともに倒れながらも励ましあう、新たな関わり道の道が必ず拓けるのではないか。あれも駄目これも駄目、なにもかにも無駄と諦めることこそ、神の救いの恵みを無にする何よりも恐ろしい認知症かもしれない。合掌



昨年六月にめでたく後期高齢者の仲間入りを果たし、第八番目になる岩国教会で既に三年が過ぎた。生老病死はまさに人の道であり、誰も免れ難い定めではあるがそれならばこそ、万人を一つに結び合わせる連帯の基

でであり、同じ共通の土俵でも

だ

中国ブロック カトリック高校生大会のお知らせ
PIECE OF PEACE
～平和の花を咲かせよう～

【対象】 中3～高3
【日程】 2015年3月25日(水)～28日(土)
【場所】 ノートルダム清心中・高等学校
【問合せ先】 大西助祭(08065796075)

◆中プロ担当者から◆

人を集めています！今年の中プロは、なるべく沢山の人が参加してもらいたいと考えています。教会になかなか行けない子、学校になじめない子、進路に迷っている子。どんな子でも大歓迎！スタッフ一同、心を込めて準備中！かけがえのない出会い、思い出になること間違いなし！大人の皆さま、どうかお近くの若者に申込み用紙を渡し、参加するよう声をかけてください。あとは、神様におまかせです。



司教座空位のまま新年を迎えた。今年、被爆七十周年となる大事な年、八月までには・・・と願う。